



# 輝き人生 ライフ

このコーナーではきらりと輝きながら活躍する市民を紹介します。

すべての人の感動と喜びに  
貢献できる審判員を目指して

はたの ゆういち  
**波多野 祐一さん** (関町中町)



「FIFAビーチサッカーワールドカップ2017」では、バハマ対セネガル、イタリア対メキシコの試合で審判

「審判員は、常に冷静で的確なジャッジが要求されます。そのなかで、選手たちが全力を出し切り、観客も見ていて楽しい試合運営ができた時は本当に嬉しいです」と話すのは、ビーチサッカー(砂の上で1チーム5人で行うもの)の国際審判員として活動する波多野祐一さん(36歳)。4月～5月にバハマ国で開催された『FIFAビーチサッカーワールドカップ2017』(世界一の国を決める国際大会)に審判員として参加。各国代表選手が国の誇りをかけて戦う試合で、厳密かつ円滑に試合を進行させ、審判員として、その役割を果たしました。

—国際審判員になったきっかけは？

「大学生の時に、選手をしながらサッカーの審判員資格を取得したのが最初です。その後、審判

活動にのめりこむなかで、世界の舞台で活躍する先輩の姿に憧れ、自分も国際審判員になりたい、ワールドカップの舞台で審判員として笛を吹きたいと強く思うようになりました。」

—審判員としてのやりがいとは？

「審判活動を通じて、子どもの頃から大好きなサッカーに、生涯関わっていけることに大きなやりがいを感じています。また、国内や海外で活動するなかで多くの仲間や指導者に出会い、多様な価値観を知り、自らの視野を広げられることは、私の人生の大きな財産と言えます。」

—世界の舞台に立ってみて？

「国内やアジアのビーチサッカーの競技レベルが高いこともあり、普段の試合で実践している

ジャッジをピッチ上で誠実に表現することができれば、日本の審判員も十分に対応できると感じました。また一方で、世界トップレベルの選手の豪快でスピーディーなプレーや観客の熱狂ぶりを肌で感じられ、『やはり、サッカーは楽しい!』ということをあらためて強く実感しました。」

—これからの目標は？

「次回開催のビーチサッカーワールドカップに、再び審判員として参加し、今回果たすことのできなかった、決勝トーナメントの舞台に立ちたいと思います。そのためにも、『一試合、一試合、誠実に』を信念に、すべての人の感動と喜びに貢献できる審判員を目指して、これからの審判活動に努力し続けていきます。」



亀山市名誉市民

彫刻家 **中村 晋也**

作品紹介「ふるさとあい」Vol.15

## 「愛と勇気」(平成26(2014)年建立)

有翼の馬については、洋の東西それぞれに伝説があります。ギリシャ神話のペガサスは、天を自由に翔ける有翼の馬で「不屈」を意味しており、ローマ時代は「不死」のシンボルでもありました。中国では天馬と呼び、天上界で天帝が乗る最高の駿馬といわれています。

馬の美しさに魅せられて、さまざまな馬の彫刻に取り組んできた中村は、若者たちに希望をもって夢を追い求めてもらいたいという願いを、有翼の馬と少年の姿に込めたと語っています。下から見上げると、真っ青な空に翼を大きく広げた姿が映えてとても美しい作品です。



311cm(高さ)×365cm(幅)×256cm(奥行き)  
(EH株式会社[大阪府堺市])

特別協力 公益財団法人中村晋也美術館([URL http://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/index.html](http://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/index.html))